



麻田鷹司 「五箇山雪里」

(1983年、紙本着彩、医療法人財団五省会西能病院蔵)

©Teruko Asada2013
JAA1300177

H25.11.7
北日本新聞



全国の名勝描く

お宝拝見わが社の逸品 県水墨美術館で開催中

世界遺産でもある五箇山合掌造り集落は、全国的に知られた名所の一つ。ポピュラーすぎるため、構図や色使いで独自性を出そうとする画家が多い中、日本画家の故麻田鷹司さんは奇をてらわず、真正面から冬景色を描いた。

かつて美術雑誌で「名所が名所でありえてきた所以を見直す」と

語ったように、天橋立や松島、厳島など全国の名勝を好んで絵にしてきた。日本人が美しいと感じる風景を捉え直すことで、日本に生まれ育った画家であることを再認識したかったのだという。

「五箇山雪里」は雪に覆われ、人けのない集落を描いた。うずたかく積もった雪は冬の厳しさを際立たせ、雪の重みに耐える家屋の姿は春の訪れを待つ住民たちの姿と重なる。名所を描き続けた理由の一つには、景色を通して、そこに暮らす人々と対話したいという思いがあったのかもしれない。

お宝拝見一わが社の逸品 24日まで県水墨美術館。県内企業が所蔵する江戸後期以降の絵画を中心に、54点を展示する。北日本新聞社と同館でつくる実行委員会主催。開館時間は午前9時半から午後5時まで。月曜休館。観覧料は一般800円、大学生500円。問い合わせは同館、電話076(431)3719。